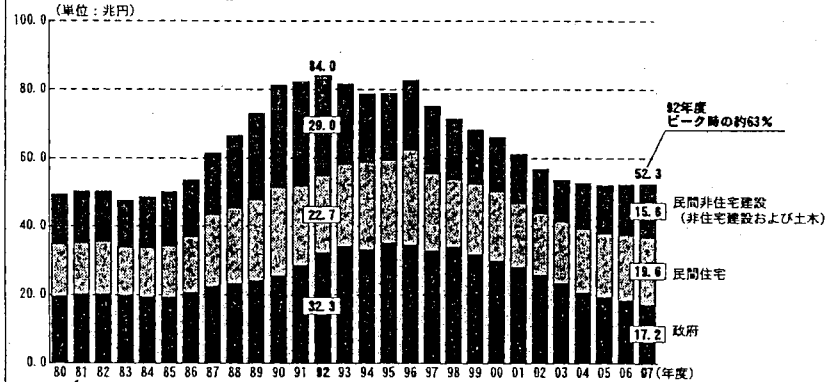


前年度並みの52兆3400億円

国交省が07年度建設投資見通し

4年連続増の民間が下支え

建設投資額（名目）の推移



国土交通省は12日、07年度の建設投資見通しを発表した。投資総額（名目）は前年度比0.1%増の52兆3400億円と、微増ながら2年連続のプラスになる見込み。内訳は政府建設投資が17兆1700億円（前年度比6.8%減）、民間建設投資が35兆1700億円（同3.9%増）で、政府部門は9年連続で減少するが、民間部門が4年連続で伸び、全体を下支えする。

07年度の建設投資総額は、ピークだった92年度の約63%の水準となる。政府部門の投資額の内訳は、土木が15兆4400億円（同5.9%減）、非住宅が1兆2200億円（同17.6%減）、住宅が5100億円（同5.6%減）と見込む。07年度当初予算では国の一般公共事業費、地方単独

事業費とも前年度比で前減が続いており、投資額の大幅な縮小が避けられない。民間部門の投資額の内訳は、住宅が19兆5900億円（同2.6%増）、非住宅建設が9兆9500億円（同5.0%増）、土木が5兆6300億円（同6.8%増）の見通し。国交省は、景気回復に伴う雇用情勢や家計の改善を背景に、住宅投資は引き続き底堅く推移するとみている。

非住宅建設と土木の投資額の合計は前年度比で5.6%増となり、設備投資が堅調なことから伸び率は前の年度に比べて1.5%拡大する見通し。前年度の設備投資は主に製造業がけん引したが、07年度は非製造業でも増加するとみている。